

令和元年度
大分県インバウンド観光動態調査報告書
エクゼクティブサマリー

2019年11月29日

NAVITIME

株式会社ナビタイムジャパン

2018年度分析

1. 滞在分析

- ・九州地方には日本全国の約5.7%にあたる14,194人が滞在し、大分県には約1.3%にあたる3,256人が滞在した。
- ・大分県は九州地方で見れば、福岡に次いで2番目に滞在中者が多く、九州地方滞在中者の約22.9%が訪れている。
- ・大分県内の滞在中は、別府市が最も多く1,813人、次いで由布市1,706人、大分市446人となっている。

【概観】

- ・大分県滞在中者の72.1%は福岡県にも滞在中しており、他県と突出して多い。
- ・次いで熊本県23.8%、東京都17.9%、長崎県15.1%、京都府14.8%、大阪府13.6%、広島県13.0%、佐賀県9.6%と続き、北九州エリア周遊とゴールデンルート各都市と一緒に訪れられていることが分かった。
- ・また、沖縄県を除く九州他県は上位10位内に入っており、量の多寡はあるが、九州全体へ周遊している様子が伺える。
- ・市区町村ごとに見れば、大分県滞在中者の59.2%が福岡市博多区にも訪れており、最も多く、次いで、別府市55.7%、由布市52.4%、福岡市中央区44.7%、太宰府市17.9%、熊本市中央区15.8%と続く。

【入出国空港】

- ・大分県滞在中者の約3分の2にあたる65.8%は福岡空港から入国しており、次いで成田空港（9.5%）、羽田空港（5.3%）、北九州空港（4.7%）となっている。また、大分空港利用は6番目で3.9%の利用となっており、九州地方の空港では、福岡空港、北九州空港に次いで3番目である。なお、出国空港についても同様の傾向を示している。

【入出国空港の組み合わせ】

- ・大分県滞在中者の入国が最も多い福岡空港においては、出国も福岡空港である場合が92.9%と9割を超えている。
- ・また、入国が2番目に多い成田国際空港では、出国も成田国際空港である場合が66.7%、次いで東京国際空港が14.0%と首都圏空港で80.7%となっており、その次に福岡空港8.8%となっている。
- ・大分空港からの入国者は、空港利用として6番目に位置し、出国も大分空港である場合が56.0%、次いで福岡空港が28.0%となっており、この2空港で84.0%を占める。

2. 相関分析

◆別府市

【欧米豪】

- ・別府市滞在者443人の35.4%にあたる157人が福岡市博多区と広島市中区にも滞在しており、最も多い。次いで、京都市中京区30.5%、京都市下京区29.8%、台東区26.4%、新宿区25.3%とゴールデンルート上の各都市と共に滞在されていることが分かる。また、大分県内では、由布市が25番目の11.3%、大分市が30番目の9.5%と別府市滞在者の約1割程度と一緒に訪れていた。

【アジア】

- ・別府市滞在者1,177人の67.2%にあたる791人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、福岡市中央区50.4%、由布市49.4%、太宰府市25.1%、熊本市中央区18.4%、福岡市早良区16.0%、大分市13.3%と、福岡県を中心に由布市、熊本市を訪れており、九州以外の地方の滞在は少ない傾向にある。
- ・なお、大分県内の由布市にも滞在した割合が約半数の49.4%と、欧米豪の11.3%と比較して高い傾向にある。

◆由布市

【欧米豪】

- ・由布市滞在者133人の59.4%にあたる79人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、福岡市中央区40.6%、別府市37.6%と続き、約20~25%は主に東京特別区と京都市中京区にも滞在している。また、大分県内では2番目の大分市は全体の9番目で19.5%であった。

【アジア】

- ・由布市滞在者1,513人の78.6%にあたる1,189人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、福岡市中央区62.8%、別府市38.5%、太宰府市30.1%、福岡市早良区19.1%、熊本市中央区18.9%と、福岡県を中心に別府市、熊本市を訪れており、九州以外の地方の滞在は少ない傾向にある。なお、この傾向は別府市とのほとんど同様の傾向である。
- ・大分県内の別府市にも滞在した割合は38.5%と、欧米豪の37.6%とほとんど割合的に変わらない。

2. 相関分析

◆大分市

【欧米豪】

- ・大分市滞在者90人の46.7%にあたる42人が別府市にも滞在しており、最も多い。次いで、福岡市博多区35.6%、由布市28.9%、港区・広島市中区・福岡市中央区が23.3%と並び、大分県内の滞在者の多い別府市と由布市の他、福岡市、東京特別区や広島市、京都市などゴールデンルート上の各都市と共に滞在されている。

【アジア】

- ・大分市滞在者332人の53.0%にあたる176人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、別府市47.0%、由布市40.1%、福岡市中央区35.8%、熊本市中央区18.7%、北九州市小倉北区14.8%、太宰府市14.5%、阿蘇市11.1%と、別府市や由布市、福岡県を中心に訪れており、九州以外の地方の滞在は少ない傾向にある。
- ・なお、大分県内の別府市と由布市への滞在は、欧米豪と同様に上位にあった。

3. 流動分析

【全国籍】

大分県内滞在者は、北九州方面や博多・久留米方面との流動が多く、次いで阿蘇・熊本方面との流動が見られた。また、宮崎方面への流動も少ないながらも他、フェリーを利用した愛媛県八幡浜方面への流動も確認できた。

なお、北九州や博多方面へは、日豊本線と東九州自動車道、久留米市方面へは、久大本線および大分自動車道、阿蘇・熊本方面へは、豊肥本線、国道11号、国道387号線、宮崎方面へは、日豊本線や、東九州道、国道326号線を利用しており、鉄道、自動車も使われている。

【欧米豪】

欧米豪の大分県内滞在者は、北九州方面の流動が最も多く、次いで鳥栖・久留米方面に北九州方面の半分から1/3程度の流動が見られた。また、阿蘇・熊本方面への流動も見られた他、宮崎方面やフェリーを利用した愛媛県八幡浜方面への流動も確認できた。

【アジア】

アジアの大分県内滞在者は、鳥栖・久留米方面の流動が最も多く、次いで北九州方面に鳥栖・久留米方面の1/3程度の流動が見られた。また、阿蘇・熊本方面への流動も確認でき、少ないながらも宮崎方面への流動も確認できた。

4. 前後宿泊分析

◆大分県

【全国籍】

- ・大分県宿泊者2,483人の48.4%にあたる1,201人が別府市に宿泊しており、最も多い。次いで、由布市38.1%、大分市11.6%と続き、他の市町村は3%にも満たない。

【欧米豪】

- ・大分県宿泊者509人の70.7%にあたる360人が別府市に宿泊しており、最も多い。次いで、由布市15.3%、大分市11.1%と続き、他の市町村は3%にも満たず、別府市の宿泊割合が突出している傾向にある。
- ・なお、欧米豪では別府市が最も多いが、アジアでは由布市が最も多くなっている他、アジアでは、由布市と大分市の2市に宿泊が分散されているが、欧米豪は別府市1市に集中している。

【アジア】

- ・大分県宿泊者1,748人の47.3%にあたる827人が由布市に宿泊しており、最も多い。次いで、別府市39.2%、大分市12.5%と続き、他の市町村は4%にも満たず、約4～5割が由布市と別府市への宿泊、約1割が大分市となっている。
- ・なお、アジアでは由布市が最も多いが、欧米豪では別府市が最も多くなっている他、欧米豪では、別府市1市に集中しているが、アジアは由布市と大分市の2市に宿泊が分散されている。

5. 宿泊日数分析

- ・ 日本旅行全体の宿泊日数が増えても大分県内の宿泊は1～2日程度に留まる。
- ・ 由布市と大分市の宿泊日数は、日本旅行の全宿泊日数に関わらず1日未満であった。
- ・ 欧米豪が大分県内に宿泊する平均日数は2日程度であり、日本旅行の全宿泊日数の増加によらずほぼ一定であった。
- ・ 欧米豪の大分県内宿泊者の70.7%は別府市に宿泊していることから、大分県の傾向も別府市の影響が大きく反映されている。
- ・ アジアが大分県内に宿泊する平均日数は1～2日程度であり、日本旅行の全宿泊日数の増加によらずほぼ一定であった。

2019年ラグビーワールドカップ期間分析

1. 滞在分析

- ・九州地方には日本全国の約7.5%にあたる3,149人が滞在し、大分県には約2.8%にあたる1,174人が滞在した。
- ・大分県は九州地方で見れば、福岡に次いで2番目に滞在者が多く、九州地方滞在者の約37.3%が訪れている。
- ・大分県内の滞在は、別府市が最も多く657人、次いで大分市616人、由布市301人となっている。

【概観】

- ・大分県滞在者の59.5%は東京都に滞在しており、半数以上を占めて最多であった。
- ・次いで福岡県50.5%、京都府45.1%、広島県39.1%、大阪府38.0%、熊本県23.6%、神奈川県20.5%、兵庫県18.1%と続き、北九州エリア周遊とゴールデンルート各都市と一緒に訪れられていることが分かった。
- ・また、沖縄県を除く九州他県は上位20位内に入っており、量の多寡はあるが、九州全体へ周遊している様子が伺える。
- ・市区町村ごとに見れば、大分県滞在者の56.0%が別府市にも訪れており、最も多く、次いで、大分市52.5%、福岡市博多区37.7%、新宿区・広島市中区33.0%、中央区30.2%と続く。

【入出国空港】

- ・大分県滞在者の約3分の1にあたる32.3%は成田空港から入国しており、次いで福岡空港（26.3%）、東京国際空港（19.8%）、関西空港（11.1%）となっている。また、大分空港利用は7番目で1.2%の利用となっており、九州地方の空港では、福岡空港に次いで2番目である。なお、出国空港についても同様の傾向を示している。

【入出国空港の組み合わせ】

- ・大分県滞在者の入国が最も多い成田空港においては、出国も成田空港である場合が65.4%、次いで東京国際空港が13.5%と首都圏空港で78.9%となっており、その次に福岡空港13.5%となっている。
- ・また、入国が2番目に多い福岡空港では、出国も福岡空港である場合が84.0%と8割を超えている。
- ・大分空港からの入国者は、空港利用として7番目に位置し、出国には東京国際空港を25.0%が利用していた。

2. 相関分析

◆別府市

【欧米豪】

- ・別府市滞在者420人の57.4%にあたる241人が、ラグビーワールドカップの試合会場が所在した大分市にも滞在しており、最も多い。次いで、広島市中区50.5%、新宿区50.2%、京都市中京区45.0%、中央区44.5%とゴールデンルート上の各都市と共に滞在されていることが分かる。また、大分県内では、由布市が32番目の12.1%と別府市滞在者の約1割程度と一緒に訪れていた。

【アジア】

- ・別府市滞在者148人の70.9%にあたる105人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、福岡市中央区56.8%、由布市47.3%、太宰府市31.8%、熊本市中央区28.4%、福岡市中央区28.4%、大分市16.2%と、福岡県を中心に由布市、熊本市を訪れており、九州以外の地方の滞在は少ない傾向にある。
- ・なお、大分県内の由布市にも滞在した割合が約半数の49.4%と、欧米豪の12.1%と比較して高い傾向にある。

◆由布市

【欧米豪】

- ・由布市滞在者125人の48.0%にあたる60人が大分市にも滞在しており、最も多い。次いで、別府市40.8%、新宿区39.2%と続き、約30~40%は主に東京特別区と京都市下京区、京都市中京区、広島市中区にも滞在している。

【アジア】

- ・由布市滞在者154人の85.7%にあたる132人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、福岡市中央区70.1%、別府市45.5%、熊本市中央区36.4%、太宰府市33.8%、長崎市17.5%と、福岡県を中心に別府市、熊本市を訪れており、九州以外の地方の滞在は少ない傾向にある。なお、この傾向は別府市とほとんど同様の傾向である。
- ・大分県内の別府市にも滞在した割合は45.5%と、欧米豪の40.8%とほとんど割合的に変わらない。

2. 相関分析

◆大分市

【欧米豪】

- ・大分市滞在者480人の52.7%にあたる253人が新宿区・広島市中区にも滞在しており、最も多い。次いで、別府市・中央区50.2%、京都市中京区45.4%、京都市下京区44.2%、港区41.7%と、大分県内で滞在者の多い別府市の他、東京特別区と京都市などゴールデンルート上の各都市と共に滞在されている。
- また、大分県内では、由布市が33番目の12.5%と大分市滞在者の約1割程度が一緒に訪れていた。

【アジア】

- ・大分市滞在者48人の54.2%にあたる26人が福岡市博多区にも滞在しており、最も多い。次いで、別府市50.0%、福岡市中央区・由布市43.8%、熊本市中央区31.3%、北九州市小倉北区・長崎市20.8%と、別府市や由布市、福岡県を中心に訪れており、九州以外の地方の滞在は少ない傾向にある。
- ・なお、大分県内の別府市への滞在は、欧米豪と同様に上位であった。

3. 流動分析

【全国籍】

大分県内滞在者は、北九州方面や博多・久留米方面との流動が多く、次いで阿蘇・熊本方面との流動が見られた。

また、宮崎方面への流動も少ないながらも確認できた。

なお、北九州や博多方面へは、日豊本線と東九州自動車道、久留米市方面へは、久大本線および大分自動車道、阿蘇・熊本方面へは、豊肥本線、国道11号、国道387号線、宮崎方面へは、日豊本線や、東九州道、国道326号線を利用しており、鉄道、自動車も使われている。

【欧米豪】

欧米豪の大分県内滞在者は、北九州方面の流動が最も多く、次いで鳥栖・久留米方面に北九州方面の半分から1/4程度の流動が見られた。

また、阿蘇・熊本方面への流動も確認できた。

【アジア】

アジアの大分県内滞在者は、鳥栖・久留米方面の流動が最も多く、次いで北九州方面に鳥栖・久留米方面の1/3程度の流動が見られた。

また、阿蘇・熊本方面への流動も確認でき、少ないながらも宮崎方面への流動も確認できた。

4. 前後宿泊分析

◆大分県

【全国籍】

- ・大分県宿泊者949人の53.6%にあたる509人が別府市に宿泊しており、最も多い。次いで、大分市25.6%、由布市18.7%と続き、他の市町村は3%にも満たない。

【欧米豪】

- ・大分県宿泊者509人の55.2%にあたる324人が別府市に宿泊しており、最も多い。次いで、大分市29.1%、由布市13.3%と続き、他の市町村は4%にも満たず、別府市の宿泊割合が突出している傾向にある。
- ・なお、欧米豪では大分市への宿泊が3割近くを占めていたのに対して、アジアは1割程度に留まった他、欧米豪では別府市と大分市の2市に宿泊が集中しているが、アジアは別府市と由布市の2市に分散されている。

【アジア】

- ・大分県宿泊者236人の48.7%にあたる115人が別府市に宿泊しており、最も多い。次いで、由布市36.0%、大分市14.8%と続き、他の市町村は5%にも満たず、約4～5割が由布市と別府市への宿泊、約1割が大分市となっている。
- ・なお、アジアでは由布市への宿泊が4割近くを占めていたのに対して、欧米豪は1割程度に留まった他、アジアでは別府市と由布市の2市に宿泊が集中しているが、欧米豪は別府市と大分市の2市に分散されている。

5. 宿泊日数分析

- ・ 日本旅行全体の宿泊日数が増えても大分県内の宿泊は1～2日程度に留まる。
- ・ 大分市、由布市、別府市の宿泊日数は、日本旅行の全宿泊日数に関わらず1日未満であった。
- ・ 欧米豪が大分県内に宿泊する平均日数は2日程度であり、日本旅行の全宿泊日数の増加によらずほぼ一定であった。
- ・ アジアが大分県内に宿泊する平均日数は1～2日程度であり、日本旅行の全宿泊日数の増加によらずほぼ一定であった。

2018年度と2019年ラグビーWCの取りまとめ と今後の取組への提言

1. ラグビーWCによる欧米豪滞在者の増加

欧米豪の滞在者は増加。大分県と熊本県での試合開催を受けて、大分県内のみならず、福岡県や熊本県の滞在者数増加にも寄与したと言える。アジアは、ラグビーWC期間でのスタジアムでの滞在が確認できなかったことから開催の影響よりも情勢の影響により、ダウントレンドにあると考えられる。

これらのことから国際的スポーツイベントの開催は、普段では滞在が少ない属性の旅客（欧米豪や初訪日者）が多く訪れる効果が見込まれる。ただし、試合会場のあった大分市の滞在割合は非常に高かったが、普段の滞在者の多い別府市や由布市を訪れる割合は減少していたことから、呼び込んだ後にどのように当該エリアを周遊させるかの検討は必須であり、呼び込んだ旅客の周辺への波及を促す必要がある。

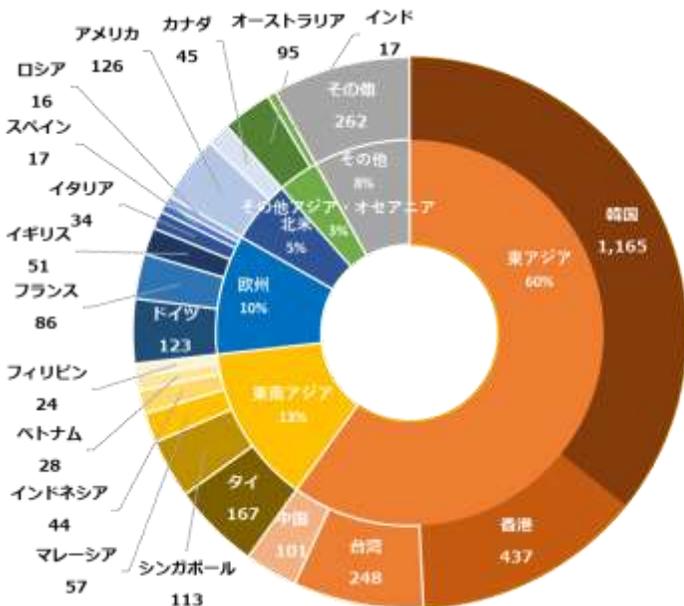
◆欧米豪

エリア	2018年度			2019年ラグビーWC期間		
	人数	全国比	九州比	人数	全国比	九州比
全国	79,118	—	—	16,678	—	—
九州地方	3,328	4.2%	—	1,679	10.1%	—
大分県	593	0.7%	17.8%	764	4.6%	45.5%

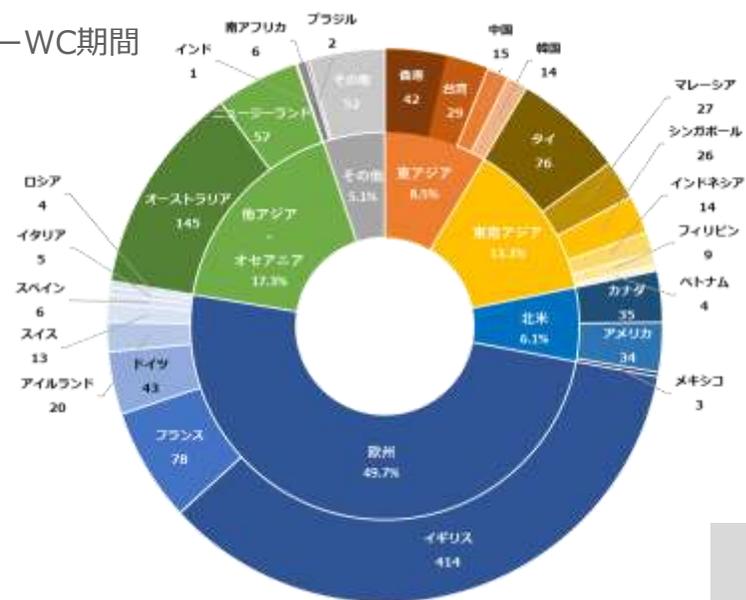
◆アジア

エリア	2018年度			2019年ラグビーWC期間		
	人数	全国比	九州比	人数	全国比	九州比
全国	145,846	—	—	20,132	—	—
九州地方	9,628	6.6%	—	1,679	8.3%	—
大分県	2,401	1.6%	24.9%	257	1.3%	15.3%

▼2018年度



▼2019年ラグビーWC期間



2. 欧米豪のゴールデンルート（東京・京都・大阪）+広島+福岡+大分ルートの周遊促進

欧米豪の大分県滞在者は7～9割が成田・羽田・関西空港で入出国しており、東京、京都・大阪を巡るゴールデンルートに加え、広島、福岡での滞在を経て、大分に滞在していると考えられる。今後の欧米豪の取り込みにあたっては、これらの周遊者を増加させていくことが考えられ、上記に挙げた主要都市や新幹線沿線で大分県の情報提供を行うことにより、誘客を図っていくことが重要である。また、上記ルート周遊者は出国のために、成田・羽田・関西空港に戻る必要があることから、大分空港から成田・羽田・関西空港への利用を経て、自国に帰国するようなルートの利用促進を図っていくことも考えられる。

3. アジアおよび欧米豪の九州北部+熊本+高千穂峡ルートの周遊促進

アジアの大分県滞在者は8割が福岡空港で入出国しており、九州地方以外の滞在はほとんど確認できないことから九州地方を周遊していると考えられる。大分県滞在者は、福岡県福岡市と一緒に訪れられる割合が最も高く7割程度であり、この流動を強化していくとともに、約3割程度と一緒に訪れる熊本県熊本市との流動を強化していくことで、大分県、福岡県、熊本県の周遊ルートを確立させることが重要となると考えられる。特に大分県と熊本県との流動を強化するにあたっては、熊本県や宮崎県高千穂町などの関係自治体やDMOと連携し、その流動の途中で所在する黒川温泉や高千穂峡、阿蘇をルート上に取り込みながら、相互送客により誘客を促進していくことが重要である。

欧米豪については、2. で示した施策により、大分県内への誘客を促進させるとともに、呼び込んだ旅客の九州北部+熊本県+高千穂峡ルートの周遊促進を行っていくことが重要である。

4. 別府市・由布市・大分市以外の立ち寄り滞在地の情報提供と周遊観光の推進

大分県内における宿泊日数は、欧米豪、アジア問わず、日本旅行の日数の多寡に関わらず、1～2日程度であった。また、滞在地を見ても欧米豪は別府市を中心に、由布市、大分市に滞在しており、アジアは由布市と別府市を中心に、大分市に滞在と滞在箇所が3市に偏っている。大分県への流出入は、主に北九州方面や博多・久留米方面、阿蘇・熊本方面に分かれるが、上記に挙げた3市やそれぞれの方面先の滞在地で経由地の情報提供を行うことで、主要観光地への来訪を契機とした立ち寄りを促していくことが重要である。その際には、歴史・文化などの体験を求める欧米豪とフォトジェニックな体験を求めるアジアでは、訴求方法が異なることに注意されたい。

5. 継続したデータ取得と分析

観光による地域活性化は継続的な取り組みにより徐々に効果が表れてくるものであり、データに基づく施策や方策の検討、施策の効果検証を繰り返しながら、継続的に取り組んでいく必要がある。そのため、継続的にデータ取得を行い、季節変動や経年変化などを定点観測し、具体的な施策検討や効果検証へ結び付けることが需要である。